

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	からだのしくみ1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期 前期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位	授業形態	講義	
教科書/教材	教科書は「解剖学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	神野 宏司	実務経験の有無・職種	無	
<b>学習目的</b>				
<p>人体の形態・構造の理解を目指すための学びである。受講する学生は、取得を目指す柔道整復師免許が医療資格であることを十分理解し、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため、人体の構造と機能を熟知する必要があるが、自らが実施しようとする施術については患者の老若男女を問わず、その性質についての理解と同意を得られなければならない。そのため学生がこの科目を受講することで人体構造について患者へよりわかりやすく説明できる人材の育成を目的としている。学生自身が将来必要とされる患者への説明技術を習得することでinformed consentの能力を向上させることがねらいである。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>人体の構造や機能に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものといえる。人体が、どのようなしくみをもって構成されているかを調べる学問では、たとえば心臓・肺・胃・腸などが、身体のどの部分にあって、どのような形をし、どのような大きさで、内部がどのように組み立てられているかを知る。人体が、いかにして生命を維持し働いているかを調べる学問では、例えば食物が、胃・腸においてどのようにして消化・吸収され、エネルギー源になり、また血や肉になるかを知る。この科目では、人体を深く理解するうえで広範囲な人体の10系統について医療現場にて患者へ必要かつ理解しやすい説明を行える知識を習得することを目標としている。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	教科書中心で授業を進める。人体は、多数の種類細胞が集まってできており、同じ種類の細胞が集まると組織ができる。さらに、いくつかの組織が目的をもって集まり、ある一定の形態をそなえ働くものを器官といい、その器官が連携し協同して働くものを器官系という。人体は細胞・組織・器官・器官系という一連の仕組みで基本的に構成されていることを系統ごとに学ぶ。			
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	0%		
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	消化器（肝臓）	肝臓の特徴・位置・重量・構造・機能について理解する		
2回	消化器（胆嚢・膵臓）	胆嚢と膵臓の特徴・構造・機能について理解する		
3回	消化器（腹膜）	腹膜の特徴・構造・機能と腹膜後器官について理解する		
4回	呼吸器（外鼻・鼻腔・副鼻腔）	外鼻の構成、鼻腔と副鼻腔の構成と機能について理解する		
5回	呼吸器（咽頭・喉頭）	咽頭と喉頭の特徴・構造・機能ならびに喉頭軟骨について理解する		
6回	呼吸器（気管・気管支・肺）	気管・気管支の特徴・構造・機能ならびに肺の構造・機能・特徴や機能・栄養血管について理解する		
7回	泌尿器（腎臓）	腎臓の特徴・構造・機能について理解する		
8回	前期7週までの振り返りと確認演習	1回～7回までの知識が蓄積されているか確認する		
9回	泌尿器（尿管・膀胱・尿道）	尿管・膀胱・尿道の特徴・構造・機能について理解する		
10回	生殖器（男性生殖器）	主要器官である精巣と前立腺や陰茎などの副生殖器の特徴・構造・機能について理解する		
11回	生殖器（女性生殖器）	卵巣・卵管・子宮・膣ならびに外生殖器の特徴・構造・機能について理解する		
12回	生殖器（胎盤）	胎盤の役割と構造・機能について理解する		
13回	内分泌（ホルモン）	内分泌樹の働きについて理解する		
14回	前期13週までの振り返りと確認演習	9回～13回までの知識が蓄積されているか確認する		
15回	まとめ	半期で取得した知識の確認		